

「当院におけるチルゼパチドの治療効果の検討」について

当センターでは下記の通り臨床研究(学術研究)を実施しています。この研究は診療記録と検査結果に基づいて行われます。厚生労働省・文部科学省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、倫理委員会の承認のもとで実施されます。

研究背景

2023 年 4 月に 2 型糖尿病の新規治療薬として GIP/GLP-1 受容体作動薬のチルゼパチド(マンジャロ®)が発売され、血糖降下作用に加えて体重減量効果を発揮するとされています。肥満を合併する 2 型糖尿病では血糖コントロールだけでなく肥満の解消が合併症の進行を抑制するために重要であり、同薬が有効な可能性はありますが、実際には効果の個人差が大きく、検証が必要な状態です。

研究目的

2 型糖尿病で入院および外来でチルゼパチドを投薬したことのある症例について、経過中の血糖コントロールと体重変化を調査し、副作用の出現状況や各種データとの比較検討を行うことで同薬の有効性を検証します。

研究対象

2 型糖尿病で入院および外来でチルゼパチドを処方したことのある症例を対象としています。

研究方法

上記の患者さんの臨床データをカルテ情報を元に収集して分析します。現在通院中の患者さんに新たな検査や投薬等の費用負担や検査侵襲が発生することはありません。

個人情報保護に関する配慮

診療内容には個人情報が含まれるため、個人が特定されない方法で解析を行います。対象となる患者さんの情報を識別する目的で本研究専用番号を振り分けるため、個人情報は固く守られます。研究成果を学会発表や論文投稿の形で開示することがありますが、その際は統計的に処理されたデータのみを公表いたしますので、患者さんの個人情報や個別の臨床データを直接公表することはありません。

研究に関するお問い合わせ

患者さんからのご希望があれば、診療情報を研究に使用しないことが可能ですので、下記連絡先まで申し出てください。診療情報の使用に同意いただけても患者さんに不利益を生じることはありません。

研究担当

日本赤十字社和歌山医療センター 糖尿病・内分泌内科

研究代表者 廣島知直

共同研究者 杉本浩嗣、伊藤沙耶、金子至寿佳

〒640-8558 和歌山県和歌山市小松原通四丁目 20 TEL 073-422-4171(代表)

2025/5 第 68 回日本糖尿病学会年次学術集会

「当院におけるチルゼパチドの治療効果の検討」

廣島 知直、杉本 浩嗣、伊藤 沙耶、金子 至寿佳

【背景】 GIP/GLP-1 受容体作動薬は血糖降下作用に加えて体重減量効果を有し、肥満を合併する 2 型糖尿病での有効性が期待されている。

【目的】 チルゼパチド投与例の血糖と体重の推移を検討し、有効例の臨床像を明らかにする。

【方法】 当院で外来および入院でチルゼパチドを処方した症例のうち、経過中の体重変化が確認可能な 120 例を対象とし、HbA1c と体重の推移を各種臨床データと比較検討した。また治療開始前の血中インスリン濃度を測定されている症例については別途解析を行った。

【結果】 治療前の HbA1c が高い症例ほど体重は有意に減少したが、個人差が大きかった。治療前の血中インスリン濃度が高い症例では体重の減少率が小さい傾向にあった。

【考察】 チルゼパチドは幅広い臨床像での有効性が期待されるが、高インスリン血症の症例では肥満解消効果が減弱する可能性がある。